

発表区分： 関連専門職一般演題

希望発表形式： ポスター

疾患・障害単位： 01. 脳卒中

方法： ク. その他

分野： q. 地域リハビリテーション・在宅リハビリテーション

## 患者からパートナーへ ～脳幹出血の医師とのリハビリテーションクリニック開設運営に向けた二人三脚の歩み～

### From "patient" to "partner"

伊藤 健次郎<sup>1,3</sup>, 洙田 靖夫<sup>2</sup>, 碓井 理知<sup>2,3</sup>, 軽部 孝<sup>1,3</sup>, 小野 仁之<sup>3</sup>, 阪東 祐一郎<sup>3</sup>

<sup>1</sup>アクティブ訪問看護ステーション大阪, <sup>2</sup>医療法人こうじょう会 なめだリハビリテーションクリニック, <sup>3</sup>株式会社アクティブ

#### 【はじめに】

なめだリハビリテーションクリニック(以下, NRC)は, 株式会社アクティブ(以下, 弊社)と, 弊社の訪問看護(療法士による訪問)の利用者であった医師の洙田靖夫氏が共同で開設したクリニックである. 弊社と洙田氏の二人三脚の歩みを報告する.

#### 【弊社とNRC及び洙田氏の紹介】

弊社は大阪府下で訪問看護ステーション, 通所介護, 訪問介護, 就労支援事業所を運営し, 平成29年4月のNRC開設を支援. 同30年に訪問リハビリテーション開始. 洙田氏は企業の産業医で公衆衛生医でもあったが同20年に脳幹出血を発症し退職. 左上下肢の失調, 構音障害等が残存. 車椅子での移動等のADLは一部介助を要するが, NRCの院長として地域医療に携わっている.

#### 【内容及び結果】

同21年自宅退院. 復職, 講演活動の再開を目標に訪問看護を開始. 電動車椅子での外出が自立. 同23年に弊社イベントにて講演復帰. 復職は果たせなかったが, 同24年に一旦訪問を終了. その後, 転倒により左大腿骨内顆骨折を受傷され, 同28年に訪問を再開. その中で, 洙田氏の社会参加や就労支援という観点と, 弊社が目指す地域医療とが合致し, NRCの開設支援を考えるに至った. 職業訓練で弊社アドバイザーのリハビリテーション認定医を交え, 模擬カンファレンスを実施した. 専属OT, STが診療補助にあたることで医師としての診療が可能となり, 同29年4月にNRC開設, 復職となった. 現在も訪問看護での歩行, ADL練習, 言語訓練に加えて, 公衆衛生学の講義活動の支援やケーススタディ, ブログ, 社内報制作等を介した診療の振り返りへの働きかけ等, 復職後のフォローアップを継続している.

※確認用PDFです. 実際の抄録レイアウトとは異なりますのでご了承ください.